Ⅰ 前史

第1章 近代への序曲　良寛　14
第2章 「刻り」と「距離」の近代性　大田垣蓮月　20
第3章 東アジアの雑炊　富岡鉄斎　25

Ⅱ 近代政治家・企業家の書

第4章 明治初年の書体（スタイル）　西郷隆盛　34
第5章 明治の体臭　近代政治家の書　39
第6章 近代化の過程で喪ったスケール　近代企業家の書　49

Ⅲ 近代書の起源

第7章 世界の構図　副島種臣　60
第8章 写生された文字　中林梧竹　104
第9章 睨む書と天馬空を行く書　副島種臣と中林梧竹　115

Ⅳ 漢字の近代化

第10章 異文化の匂いと字画の分節　日下部鳴鶴　126
第11章 北碑の脱臼　巌谷一六　134
第12章 自娯する書　西川春洞　141
第13章 やさしさと思いやり　北方心泉　148
第14章 立体派風の書の誕生　前田黙鳳　154
第15章 鮮やかな近代的筆勢　犬養毅　161
第16章 なまなましい筆蝕のねじれ　渡辺沙鷗　169

Ⅴ 平仮名の近代化

第17章 上代様と六朝書　小野鵞堂　176
第18章 平仮名の六朝書　尾上柴舟　182
第19章 「和」的様式美の変容　近代仮名書論　188

Ⅵ 現代書の起源

第20章 「龍眠帖」——明治四十一年　中村不折　200
第21章 再構成された無機なる自然　河東碧梧桐　230
第22章 書の実験　伊藤観魚　249

Ⅶ 近代知識人の書（一）

第23章 近代西欧と東アジアの摩擦　内藤湖南　254
第24章 最後の日本的文人の手紙　夏目漱石　260
第25章 碧梧桐と虚子の母胎　正岡子規　272
第26章 韜晦する東アジアの意地　宮島詠士　277
第27章 骨格を露わにする書　西田幾多郎　284
第28章 禅の思想と「京都学派」　西田幾多郎・久松真一・山内得立　290

Ⅷ 近代画家の書

第29章 矛盾の造形　横山大観　294
第30章 平準への軌跡　川合玉堂　301

Ⅸ 近代知識人の書（二）

第31章 声を伴った歌の姿　佐佐木信綱　310
第32章 麗しさと率直さ　与謝野晶子　316
第33章 短歌の自註としての書　会津八一　323
第34章 和歌の心、洋詩の才　斎藤茂吉　332
第35章 通りすぎる形、吐き出す姿　種田山頭火　338
第36章 ことばと造形（かたち）のからみあい　高村光太郎（一）　341
第37章 淡々と描かれる書　吉井勇　350
第38章 書体（スタイル）と文体（スタイル）　岡本かの子　356
第39章 片仮名の書　久保田万太郎　362
第40章 作者のスタイルの投影　吉野秀雄　368

X　近代・現代の肉筆と印刷

第41章　近代の言葉に捨てられて　近代知識人の肉筆　376
第42章　消えていく文字のたたずまい　近代知識人の手紙　382
第43章　ペン字書史の始まり　石川啄木　390
第44章　ペン書きの書体（スタイル）　高村光太郎（二）　398
第45章　ゆれる言葉の姿　宮沢賢治　411
第46章　筆跡の美学　立原道造　434
第47章　線性の思考と東アジア文字学　白川静　438
第48章　毛筆のカリグラフィ　中川一政　451
第49章　聖像（イコン）としてのデザイン文字　芹沢銈介　458
第50章　純粋文字とデザイン文字　印刷文字論　463

XI　現代書への転換点

第51章　位相転換、その結節点　比田井天来　486
第52章　交響曲・日本浪漫　川村驥山　500
第53章　階調（グラデーション）の美学　鈴木翠軒　509
第54章　書壇前衛書、戦後書の起点　恒川樵谷　518

XII　現代書（一）

第55章　境界線上での戦略　戦後前衛書論　526
第56章　刷毛目の美学、〈書線〉の色彩化　比田井南谷　531
第57章　真正前衛書道　大沢雅休　539
第58章　主題への問い　上田桑鳩　547
第59章　戦後前衛書の到達点　武士桑風　559
第60章　〈動跡〉と〈墨跡（すみあと）〉への解体　森田子龍　565
第61章　文字の肖像写真（ポートレート）　井上有一　574
第62章　筆蝕のあそび　手島右卿　589
第63章　漢字仮名交り書へのひとつの解答　金子鷗亭　598

XIII 現代書（二）

第64章 澄明、軽快な近代音楽　津金窪仙　608
第65章 刻まれざる刻字　西川寧　615
第66章 伝統書の可能性　赤羽雲庭　622
第67章 半順・半逆の起筆　青山杉雨　627
第68章 参差と力動線の美学　殿村藍田　633
第69章 筆蝕自体を描き出す現代仮名　日比野五鳳　639
第70章 書と化さんとする刻の姿　現代の篆刻家たち　646

XIV 書の現在（一）

第71章 丸文字・シャープ文字・現代金釘流　一九七〇年代半ば以降の筆記体　654
第72章 国家の書　中央省庁看板文字　670

XV 書の現在（二）

第73章 言葉への回路　現代詩文書論　680
第74章 生への〈情（おもい）〉と言葉　江口草玄　688
第75章 棲むべき場を求める書　尾市有成　694
第76章 「ノ」「！」または割註の書　吉増剛造　702
第77章 書の領域と表現の可能性　石川九楊　711

後記　727
跋　729

初出一覧　巻末21
引用図版出典一覧　巻末8
人名索引　巻末1